船舶事故等調査報告書

平成２７年１１月２６日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２０１５横第４７号
事故等種類	浸水
発生日時	平成２７年４月１０日　０７時１０分ごろ
発生場所	千葉県鴨川市天津(あまつ)漁港南方沖 天津港西防波堤灯台から真方位１５５°６，０００m付近 （概位　北緯３５°０４．３２′　東経１４０°１１．３０′）
事故等調査の経過	平成２７年４月１３日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	 漁船　第二徳(とく)丸、１．１トン ＣＢ３－８３１３４（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	機関が濡損
事故等の経過	本船は、船長が１人で乗り組み、平成２７年４月１０日０７時００分ごろ、天津漁港南方沖の漁場において操業を終え、定係地の鴨川市実入(みいり)港へ向けて約７～８ノットの対地速力で北進していた。 本船は、船長が、操舵室後方の船尾甲板下の機関室からシュシュシュという音がしたので、機関室を点検し、ビルジが機関室の船首側に約７㎝、船尾側に約２０㎝ 滞留しているのを認め、ビルジポンプで排水を行いながら、航行を続けていたところ、０７時１０分ごろ、機関が停止した。 船長は、機関室を点検し、ビルジの増水を認めて僚船に救助を要請した。 本船は、来援した僚船にえい航されて天津漁港に陸揚げされた。
気象・海象	気象：天気　晴れ、風向　北、風速　約１０m/s 海象：波高　約２．５m、潮汐　上げ潮の中央期
その他の事項	主機の排気ガスは、排気管が接続された混合器で冷却海水と混合され、直径約１５㎝、長さ１．５mの耐熱性ゴム製のホース（以下「本件ホース」という。）を介して船外に排出されるようになっており、本件ホースは混合器に接続されていた。 船長は、出港前、機関室の点検を行ったが、本件ホースの点検は行っていなかった。 船長は、出港前、機関室を点検した際、ビルジの量は、ふだんと変わらなかった。 船長は、本船の陸揚げ後、機関室を点検したところ、本件ホース

	が混合器側で抜けていることを知り、冷却海水が機関室に噴出して滞留したものと思った。 　船長は、約５～６年前に本件ホースを新替えし、本件ホースが抜けないようにステンレス製のバンド（以下「本件バンド」という。）で固定していたが、航行を繰り返すうちに本件ホースが硬化するとともに振動等により、本件バンドが緩んで本件ホースが抜けたものと思った。
分析 　乗組員等の関与 　船体・機関等の関与 　気象・海象等の関与 　判明した事項の解析	 あり あり なし 　本船は、天津漁港南方沖を北進中、本件ホースが抜けて冷却海水が機関室に噴出したことから、機関室が浸水したものと考えられる。 　本船は、本件ホースを新替えした後、航行を繰り返すうちに本件ホースが硬化するとともに振動等により、本件バンドが緩んで本件ホースが抜けたものと考えられる。 　船長が聞いた機関室からの異音は、本件ホースが抜けて排気ガスが機関室内に噴出した音であったものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、天津漁港南方沖を北進中、本件ホースが抜けて冷却海水が機関室に噴出したため、機関室が浸水したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・出港前には、冷却海水の排出ゴムホースの緩み、亀裂等の点検を行うこと。